

平成27年度卓話集会におけるディスカッションの概要

| No. | 地区名 | 質問・要望・提案 | 回答 |
|-----|-----|--|--|
| 1 | 寺坂 | 生沢の一部が市街化調整区域から外れると聞いたが、実際はどうか。 | 市街化区域と市街化調整区域の線引きの見直しを行っているが、そのような予定はない。 |
| 2 | 寺坂 | 市街化調整区域や農振農用地になっていると、家屋の建築許可がでない。寺坂地区は農家が減少して、土地が余っている。利用しないともったいないと思えるような土地が増えている。 | 線引きについては国からは柔軟な変更が認められておらず、変更するのは難しい。 農振農用地についても、有用な農地を保全するという方向は変わっていない。町では、家屋の建築はできないまでも、特区の指定を受けることで、レストランやクラインガルテンなど農地を活用していく方法を模索している。そのためには、土地所有者や事業者などの関係者がひとつになることが必要で、町だけでは実現できない。前向きな気持ちがあれば、担当とともに改めて詳細な話をさせていただく。 |
| 3 | 寺坂 | 町が定住に向けて取り組んでいる施策はどのようなことがあるのか。 | 空き家対策の取組みを始めている。町内では空き家を活用した店舗が増えつつある。農家の空き家を活用しての定住も今後見込めると考えている。 他地域と人口の取り合いをするのではなく、大磯で子どもを産み、育てる環境づくりを進めていきたい。その一つとして、来年度から第2子以降の保育料の無料化を予定しており、この他にも東海大学大磯病院の産科再開や町内の雇用創出などは、人口を増やしていくために必要なことと考えている。 |
| 4 | 寺坂 | 公共交通機関で大磯駅周辺まで行く方法がほとんどない。コミュニティバスを運行してはどうか。 | コミュニティバスの運行によって既存の路線バスとの競合が考えられる。路線バスの利用が減少して撤退を招いてしまうと、町が運行資金を補助しなくなってしまう。西小磯の交通空白地では、地区の方を中心に検討を進め、デマンド型の乗合タクシーの運行実験を始めることになった。地区として共通の方向にまとまる必要があるので、地区としても考えてみてほしい。 |
| 5 | 寺坂 | 以前に道の駅の構想があったと思うが、どうなっているのか。地域の活性化につながると思う。 | 道の駅としての構想はないが、大磯港のみならず活性化の取組みで、農産物等の直売ができるような施設整備を検討している。また、大磯ブランドの確立を目指しており、大磯町内の生産物が売れるような仕組みや、農業のノウハウのない若い人と一緒に生産できるような仕組みづくりを行っている。 |
| 6 | 寺坂 | この地区の一番の問題はイノシシによる獣害である。獣害によって農家をやめる方が多い。 また、農協でも獣害対策の講習等をやっているが、町の実施するものは一般論になってしまい、人が集まらない傾向がある。農協とのタイアップも検討してはどうか。 | 先日保健センターにて獣害対策の講習会を実施した際には、実際に活動されている方を講師に招き、50～60人もの参加があった。農協との連携はひとつのヒントとして考えてみたい。 |

| No. | 地区名 | 質問・要望・提案 | 回答 |
|-----|-----|---|--|
| 7 | 寺坂 | イノシシが駆除できないところに逃げてしまうことが多い。 | 年間60～70頭ほどを捕獲しているが、捕獲だけで対処するにも限界がある。餌となるものを放置しない、地域全体で電気柵を設置するなど、個人での対処ではなく、地域で同じように対処していく必要がある。 |
| 8 | 寺坂 | 教育大綱の方向性は固まっているのか。 | 地域によって教育方針が大きく異なるようなことはないと思う。 町としては、「いのち」と「こころ」を大事にしたいと考えている。 |
| 9 | 寺坂 | 教育は、家庭と学校の両方で取り組んでいく必要がある。スマートフォンの利用方法など、学校では指導しているが、最終的には家庭に委ねられている。愛知県刈谷市では、学校と協力して夜9時には使用を終える取組みを行っている。これは一例だが、町としての考え方を決めて、町全体として取り組むことがあってもよいのではないかと。そうすることで、子どもの「こころ」につながってくると思う。 | 個々での取組みでは成り立たないとの指摘だと思う。学校でも様々な教育・指導をしているが、町民も一緒になって理解してもらうことが必要だと思う。そういうことの広め方ができていない部分もあるかもしれない。 |